

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名 : 分散溶剤 MIP-18
会社名 : 電子磁気工業株式会社
住所 : 東京都北区浮間5丁目6番20号
担当部門 : 開発部
電話番号 : 03-5970-8681 FAX : 03-5970-8680
緊急連絡先: 担当部門に同じ
作成日 : 2009年7月28日 改訂日 : 2023年4月1日
整理番号 : SDS15126-23
製品コード : 15126
推奨用途及び使用上の制限: 磁粉探傷試験(油仕様)

2. 危険有害性の要約

特有の危険有害性: この商品は、記載の法令に該当しますので、該当する法令の内容を確認し
取扱ってください。

危険物第4類 第3石油類 (消防法 危険物)

GHS分類

	区分
引火性液体	区分4
急性毒性(経口)	区分に該当 しない(区分外)
皮膚腐食性/刺激性	区分に該当 しない(区分外)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分に該当 しない(区分外)
誤えん有害性	区分1

GHSラベル要素

絵表示 :



注意喚起語: 危険

危険有害性情報: 可燃性液体

飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
眼に入れないこと。飲み込まないこと。
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。
禁煙。

取り扱い後はよく手を洗うこと
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

眼に入った場合 : 多量の流水で洗顔を、直ちに医師に連絡すること。

保 管	皮膚に付着した場合：	大量の水と石けん(鹼)で洗うこと。
	直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。	
	一度栓を開けた容器は必ず密栓しておくこと。	
	換気の良い場所で保管すること。	
廃 棄	施錠して保管すること。	
	内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。	

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：	化学物質	
成分及び含有量：	合成油	100 質量%
科学特性(化学式)：	特定できない	
官報公示整理番号(化審法、労働安全衛生法)：	企業秘密なので記載できない	
危険有害成分		
化学物質管理促進法：	非該当	
労働安全衛生法：	非該当	
毒物劇物取締法：	非該当	

4. 応急措置

吸入した場合	： 新鮮な空気の場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 体を毛布等で覆い、保温して安静を保ち、直ちに医師の手当てを受ける。 呼吸が止まっている場合及び呼吸が弱い場合は、衣類をゆるめ、呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。
皮膚に付着した場合	： 直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の水と石鹼水で洗う。汚染された衣服を再使用する場合には洗濯する。
眼に入った場合	： 清浄な水で数分間注意深く洗う。 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。 その後も洗浄を続け、最低 15 分間洗浄した後、医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	： 無理に吐かせないこと。 無理に吐かせないで、医師の手当てを受ける。 口の中が汚染されている場合は、水で十分洗う。
最も重要な徴候症状	： 誤飲した場合、胃の粘膜を刺激し、吐くことがある。 嘔吐中に、飲み込んだ本品が肺に吸入されると、化学性肺炎を起こし、致命的となることもある。
応急措置する者の保護	： 情報なし

5. 火災時の措置

消火剤	： 霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡が有効である。 初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。 大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。
-----	--

- 使ってはならない消火剤 : 棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。
- 特有の危険有害性 : 燃焼の際は、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。
高温の金属表面等に接触した場合、発生した蒸気によって燃焼や爆発が起きる可能性がある。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を絶つ。周囲の設備等に散水して冷却する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護 : 特に密閉された場所で消火の作業に従事する者は、必ず自給式呼吸具を着用する。
-

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置 : 作業の際には保護具を着用する。
付近の着火源となるものは速やかに取り除く。
- 環境に対する注意事項 : 下水道・河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないよう注意する。
海上の場合、展張船によるオイルフェンスの展張は危険防止のため蒸気の及ばない範囲で行う。止むを得ず危険範囲に近づく場合は蒸気の拡散状況を把握し(風向、風速、ガス濃度等)安全を確認する。
- 封じ込め及び浄化の方法
及び機材 : 蒸発しやすいので、速やかにすべての着火源を取り除き、漏洩個所の漏れを止める。
危険地域より人を退避させる。危険地域の周辺にはロープを張り、人の立ち入りを禁止する。
少量の場合は、土、砂、おがくず、ウエス等に吸収させ回収する。
大量の場合は、盛り土で囲って流出を止めた後、液面を泡で覆い容器等に回収する。
- 二次災害の防止策 : 漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。
-

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- 指定数量以上の量を取扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。
熱、火花、炎、高温体等との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。禁煙。
皮膚に触れたり、眼に入ったりする可能性のある場合は保護具を着用する。
静電気対策を行い、作業衣、靴なども導電性のものを用いる。
危険物が残存している機械設備などを修理、又は加工する場合は、安全な場所において危険物を完全に除去してから行う。
容器から取り出すときはポンプなどを使用すること、細管を用いて口で

吸い上げてはならない。飲まない。

ミストが発生する場合は呼吸器具などを使用してミストを吸入しない。

容器は必ず密閉する。

- 局所排気・全体換気 : 室内で取り扱いを行う場合は、十分な換気を行う。
換気装置をつける場合は、防爆タイプを用いる。
- 安全取扱注意事項 : 製品から発生した蒸気は空気よりも重いので滞留しやすい。そのため換気及び火気などへの注意が必要である。
容器を開けるときは手を切る恐れがあるので保護手袋を着用する。
強酸化剤との接触を避ける。
- 接触回避 : ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触並びに同一場所での保管を避ける。
- 衛生対策 : 取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

- 安全な保管条件 : 換気の良い場所で保管すること。
施錠して保管すること。
直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。
危険物の表示をして保管する。
熱、スパーク、火炎並びに静電気蓄積を避ける。
保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。保管場所に施錠して保管することが望ましい。
- 安全な容器包装材料 : 容器に圧力をかけない。圧力をかけると破裂することがある。

8. ばく露防止及び保護措置

- 設備対策 : ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。
取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
- 許容濃度 管理濃度 : 規定なし
(作業環境評価基準:労働省告示第 26 号、平成 7 年 3 月 27 日)
- 許容濃度 : 日本産業衛生学会
現在のところ有用な情報無し
ACGIH
現在のところ有用な情報無し

保護具

- 呼吸器用保護具 : 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
通常必要ではないが必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を着用する。
- 手の保護具 : 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
長期又は繰り返し接触する場合は耐油性のものを着用する。
- 眼の保護具 : 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を着用する。
- 皮膚及び身体
の保護具 : 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
長期間にわたり取扱う場合または濡れる場合には耐油性の
長袖作業着等を着用する。

- 適切な衛生対策 : 濡れた衣服は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。

9. 物理的及び化学的性質

製品

外観	物理状態	: 液体
	形状	: 液体
	色	: 無色透明
	臭い	: 僅かな臭気
融点・凝固点		: 流動点 -60(°C)
沸点、初留点及び		
	沸騰範囲	: 初留点-終点 208-254(°C)
燃焼性(固体、気体)		: データなし
燃焼の又は爆発範囲		: 爆発限界 推定値 1-7(%)
引火点		: $\geq 80(^{\circ}\text{C})$ ペンスキーマルテンス密閉式
自然発火温度		: データなし
分解温度		: データなし
pH		: データなし
動粘度		: $\leq 20.5(\text{mm}^2/\text{sec}) (40(^{\circ}\text{C}))$
溶解度		: 水:不溶
n-オクタノール／水分配		
係数		: データなし
蒸気圧		: データなし
密度(g/cm^3)		: $0.789(\text{g}/\text{cm}^3) (15^{\circ}\text{C})$
蒸気密度		: データなし
粒子特性		: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。
化学的安定性	: 常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件	: 混触危険物質との接触。
混触危険物質	: 過酸化物、強酸化剤
危険有害な分解生成物	: 燃焼の際は、一酸化炭素等が生成される可能性がある。

11. 有害性情報

製品

急性毒性(経口)	: LD50 2000(mg/kg) 以上(限度試験:蒸留範囲が若干異なる製品の結果) C10-13、C12-C17 の n-, iso-パラフィン、シクロアルカンの混合物で 5000 (mg/kg) 以上のデータあり、 区分に該当しない(区分外)
急性毒性(経皮)	: 有用な情報なし。 分類できない
急性毒性(吸入)	: 有用な情報なし 区分に該当しない(分類対象外)(気体)

	区分に該当しない(分類対象外)(蒸気)
	区分に該当しない(分類対象外)(粉塵・ミスト)
皮膚腐食性及び 皮膚刺激性	: ウサギで中ぐらいの皮膚刺激性。 区分に該当 しない (区分外)
眼に対する重篤な損傷 性又は眼刺激性	: ウサギの眼に適用したが刺激性は認められなかった。
呼吸器感作性	: 有用な情報なし 分類できない
皮膚感作性	: 皮膚感作性なし。 分類できない。
生殖細胞変異原性	: C10-13を主成分とするn-, iso-パラフィン及びシクロアルカンの混合物 では in vitro, in vivo とも陰性
発がん性	: 国際的機関で発ガン性と評価された例はない。 分類できない
生殖毒性	: C10-13を主成分とするn-, iso-パラフィン及びシクロアルカンの混合物 では生殖毒性なし。 分類できない
特定標的臓器毒性、 単回ばく露	: 有用な情報なし 分類できない
特定標的臓器毒性、 反復ばく露	: C9-13 を主成分とする n-, iso-パラフィン及びシクロアルカンの混合物 の 12 週吸入試験で NOAEL=2000 (mg/m ³)
吸引性呼吸器有害性	: 40(℃)の動粘性率が 20.5 (mm ² /s) 以下の炭化水素であり、ヒトの摂取 により肺への吸引を起こし、その結果油性肺炎または化学性肺炎をも たらすとの報告がある。 区分1
その他の情報	: 混合物については、情報なし

12. 環境影響情報

生態毒性	
急性毒性	: 分類できない
魚類	: 水に対する溶解性が極めて低く溶解度以下では有害影響はないと推 定される。
慢性毒性	: 分類できない
魚類	C8 以上のイソパラフィンは概ね難分解であるが低蓄積性。
残留性・分解性	: 情報なし
生体蓄積性	: 情報なし
土壤中の移動性	: 情報なし
オゾン層有害性	: 区分に該当しない(分類対象外)
他の有害影響	: 情報なし

13. 廃棄上の注意

- ・内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則にしたがって廃棄すること。
- ・事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、

もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

- ・投棄禁止。
- ・埋立処分を行う場合には、あらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃えがらについては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。
- ・燃焼する場合は、安全な場所で、かつ、燃焼または爆発によって他に危害または損害を及ぼす恐れのない方法で行うと共に、見張り人をつける。
- ・容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処理をすること。
- ・空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

IATA 分類	
国連分類	: 非該当
国連番号	: 非該当
品名(国連輸送名)	: 非該当
容器等級	: 非該当
IMDG 分類	
国連分類	: 非該当
国連番号	: 非該当
品名(国連輸送名)	: 非該当
容器等級	: 非該当
国内規制	: 下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する 陸上運送 消防法 危険物第4類 第3石油類 非水溶性 危険等級Ⅲ 海上運送 船舶安全法 非危険物（個別運送及びバラ積み運送に於いて） 航空輸送 航空法 非危険物
輸送の特定の安全対策及び条件	: 運搬容器及び包装の外部に、品名、数量、危険等級及び「火気厳禁」の表示をする。 容器が著しく摩擦または動揺を起こさないように運搬する。 指定数量以上を車両で運搬する場合は、総務省令で定めるところにより、当該車両に標識を掲げ、消火設備を備える。運搬時の積み重ね高さは3m以下とする。 第1類及び第6類の危険物及び高圧ガスと混載しない。

15. 適用法令

消防法	: 危険物・第4類引火性液体・第3石油類非水溶性液体 危険等級Ⅲ危険物
水質汚濁防止法	: 油分排出規定
下水道法	: 鉱油類排出規制
海洋汚染防止法	: 有害液体物質 X 類物質

廃掃法

産業廃棄物規則

海外各国

・地域の化学物質規制 : 商品に使用している化学物質が、海外各国・地域のインベントリーに収載されていない場合には当該国・地域には輸出できませんのでご留意をお願いします。商品を海外へ輸出される場合はお問い合わせください。

16. その他の情報

参考文献等

許容濃度等の勧告(2010) 日本産業衛生学会 産業衛生学会誌

米国産業衛生専門家会議(ACGIH) TLVs and BELs 2010 (2010)

ECHA (European Chemicals Agency), website ECHA CHEM , Information On Registered Substances (2011).

日本規格協会(JIS) JISZ7253:2012 「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」

材料メーカー製品測定データ及び提供情報

VCCEP, n-Alkanes, 2004 (ACC, n-Alkane VCCEP Consortium)

免責事項

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取り扱いを確保するための参考情報として、取り扱い事業者に提供されるものです。

記載内容は本データシートの作成時または改正時において当社が入手できた資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、情報の正確性や安全性を保証するものではありません。

すべての化学製品は未知の有害性があり得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。

また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものです。特別な取り扱いをする場合には、ご使用者各位の責任において個々の取り扱い等の適切な処置を講ずる必要がございます。新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、活用されるようお願いいたします。

本製品の安全データシートは、JIS Z 7253:2019 に従い作成したもので、この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
